

武汉大学 留学報告書



医学部 5 年
福田 憲太郎

今回 2013 年 3 月 1 日から 4 月 5 日まで武漢大学留学に行かせていただきました。私にとっては今回の留学が初めての留学であり、また中国へ訪れたことも初めてだったので、本当に多くの経験をさせていただきました。この報告書では私が中国で見たこと、感じたことをありのままに書いていこうと思います。そして、来年から同じように武漢大学へ留学するだろう後輩たちにとって少しでも参考になればと思います。

① 武漢市・武漢大学

まず武漢市、そして武漢大学について紹介したいと思います。武漢市は中国の湖北省に位置しています。面積は福島県の 2 分の 1 ですが、人口は 5 倍であり、人口密度は福島県の約 8 倍というとても大きな市です。武漢は今上海や北京のような近代的大都市を目指し、あらゆる所でビルやホテルなどが建設されています。そして人の数も多いのですが、その分非常に多くの自動車が道路を走っています。その結果、中国の中でも空気はあまり良い方ではありません。しかし、マスクが常時必要なほどではありませんでした。後輩たちに注意してほしいのはこの武漢の交通状況です。武漢市を走っている自動車は非常に多く、運転手はスピードも出して運転しています。よって道路を横断するときは本当に注意をしてください。あちらでは、車両の信号は赤でも常時自動車は右折することが出来ます（たまに信号を無視する車も）。最初のうちは必ず中国人の方と一緒に渡るようにしましょう。私たちは最終的に 4 号線並みの自動車が走る道路を横断歩道なしで渡れるようになりました。



(←武漢市・漢口の様子)
この写真の様に、武漢市は場所によっては東京並みに発展しています。様々な国のファッション店が立ち並び、中には日本の店なども見受けられました。ただ、街の中で非常に特徴的だったのが飲食店です。日本では和食、中華、洋食等と、様々な料理を食べる

ことが出来ますが、中国（特に武漢市）では殆どの飲食店は中国料理の専門店でした。あちらの中国料理は日本の中華料理とは違い、イメージとしては大衆料理という感じでした。武漢の料理は中国の中でも辛い物が多く、殆どの料理に唐辛子が入っていましたが、私は辛い物が苦手だったので全部取り除いて食べていました。味はおいしかったですよ。

武漢大学はこの武漢市に位置する総合大学です。私たちはこの武漢大学の医学部キャンパスで生活・学習をしていました。武漢大学医学部は1学年300人位の学生がいたと思います。更に留学生も多数おり、インド、ミャンマー、ソマリア等からの留学生が中国人の学生達とは別のクラスで、英語を使い勉強をしていました。医学部キャンパスでは桜が咲いており、その中の何本かは福島から来たものだと聞きました。

武漢大学は総合大学なので、医学部キャンパスとは離れたところにメインキャンパスを持っています。メインキャンパスにはより多くの学生がおり、中には日本からの留学生も何人かいるようです。武漢市は福島県より断然暖かい（夏は40度まで上がるそうです）ので、私たちが訪れた3月に桜がこのメインキャンパスで満開になっていました。武漢大学のメインキャンパスには日本からきた桜が植えており、春になるとその花が一斉に咲き乱れ、中国で最も桜が美しい観光名所となります。この桜を見ようと中国全土から観光客が集まるので、武漢大学メインキャンパスではこの時期に構内に入る一般人には入場料をとって立ち入りを制限します。メインキャンパスは学生寮なども伝統的に見えて、また大学とは思えない程広く、道路も大きいので大学よりもむしろ本当に観光地である雰囲気を感じさせていました。



(↑武漢大学メインキャンパス 右：メインキャンパス構内の桜)

医学部キャンパス内では所々で学生がスポーツを楽しんでいます。メジャーなのはバスケットボール、サッカー、バドミントンですね。私たちも中国人の友達とよく体育館でバドミントンをしました。意外ですが卓球はあまりメジャーではないです。

② 武漢での生活

私たち4人はこの医学部キャンパス内にあるゲストハウスに約1か月滞在してしまし



た。

(↑左：ゲストハウス 右：ゲストハウスの部屋内)

生活するうえで日本と違うところはトイレとコンセントの形位です。中国の殆どのトイレは紙を流すことが出来ません。また、ホテル以外のトイレでは紙すら置いてありません。よって外でトイレに行きたいときはティッシュペーパーを持参して、使った紙は置いてあるゴミ箱に捨てるという使い方をしていました。公衆トイレなどではトイレの扉が無かったりするので最初は驚きました。また、ゲストハウスにはWi-Fiもあるので、インターネットやアプリを用いて日本の家族や友達と電話をすることも出来ました。来年以降行く人たちはノートパソコンを持って行った方がいいと思います。福島についてのスライドなどを作る際に必要になります。

武漢で生活している間のご飯は、主にゲストハウス横の学生食堂で食べていました。留学生寮隣の小さな食堂と多くの人を使う大きな食堂があるのですが、小さな食堂では現金でご飯を買うことができ、大きな食堂では職員・学生用のICカードが無いと買うことが出来ません。私は解剖学講座の先生からカードを貸してもらうことが出来たので、主に大きな食堂を利用していましたが、それまでは小さな食堂でご飯を食べていました。ちなみに食堂のおばちゃんは中国語しか話すことが出来ませんので、最初のうちの注文はチンジャオロースやホイコーローを中国語っぽく絶叫して何とか理解してもらおうという手法をとっていました。大きな食堂では自分がほしい品を指さしておばちゃんに取ってもらい、入金したカードをかざして支払うというシステムでした。



(↑左：大きな食堂（学生一食堂） 右：学生一食堂でのご飯)

前述しましたが、武漢はとても暖かいところです。私たちが行った3月には基本的に10℃以上あり、20℃を超える日もありました。私は武漢がどんな気温かよくわからなかったなので、冬用のコートを数着持っていきましたが、一着位でいいと思います。ただ、武漢は気温がとても変動しやすいので簡単に着脱できる羽織る物を後輩諸君は持って行った方がいいですよ。

③ 武漢大学での基礎上級

私たちの留学の目的は武漢大学で基礎上級を行うことだったので、それについても書こうと思います。私は武漢大学では解剖学講座に所属しました。解剖学講座では昨年福島医大にいらっしゃった王先生、そして浜松医科大学にいた経験をお持ちで日本語を話すことが出来る Dai 教授にとってもよくして頂きました。基本的には解剖学講座での研究室に所属となり、Dr.Zheng を初め



とする研究室所属の方々の実験を見学させてもらったり、手技を手伝わせてもらったりしていました。この研究室では主に幹細胞についての研究と粥状硬化症の研究をしており、それについての論文を読み、電気泳動やアンチアンピシリンの細菌培養、ネズミの血管にカフをつける手技などを見学しまし

た。(↑研究室の様子)

私としては元々人体解剖学に興味があったので、研究室だけではなく中国人の学生用の解剖学実習と留学生用の神経解剖学の講義・実習にも参加をさせて頂きました。解剖学実習では医学部2年生の中国人の学生と話しながら行っていました。この実習の中で友達を作ることも出来たので出席してよかったと思います。武漢大学の医学部は人数が多いので1人の御遺体に対して医学生が10人位につき、その中の4人位が実際に解剖していき、周りで見学している学生とお互いが好きな時に交換していくというシステムでした。福島医大の解剖学実習と違うところは学生が解剖をグイグイ進めていくところです。福島医大では教科書を見ながら、「これ切っちゃっていいの？いいの？」とか言いながらやる人も多いと思いますが、あちらでは学生がズバズバとあらゆる構造物を切っていく、目標だけを決めて後は学生が好きなように解剖していくというスタンスでした。

留学生用の神経解剖学の講義は Dai 教授が行っていました。全て英語の授業でしたが、解剖学の英単語を学習してから臨んでいたのが理解することが出来ました。留学生はインド人が多くインド人同士で固まっていたのですが、他にもミャンマーやソマリア、白人の学生も何人かいました。授業は先生が講義を進めていくのですが、その途中でわからない所があると学生たちが積極的に質問していき、講義を所々ストップさせながら先生は学生たちの疑問に答えていました。また、先生が学生たちに向けて質問をすると生徒たちは我先にと答えていき、先生はしっかり答えを持った生徒には他の生徒達に向けて説明をさせる等、先生と生徒が密にコミュニケーションを取りながら講義を作り出していくという、とても新鮮な光景でした。

④ 武漢の人々・友人

武漢で最も感じたことは武漢大学の人達の優しさですね。先生方、そして中国人の友達も沢山作ることが出来、彼らには本当にお世話になりました。日本が好きでジャパニーズネームまで持ってる学生、フランス留学組、6か国語とか話せちゃう学生(日本語)、別の講座の大学院生・先生、解剖学実習で知り合った学生、バドミントンを通してできた友達、日本語専攻の学生等、本当に多くのそして様々な人たちと仲良くなりました。私がこの留学で本当に良かったと思ったことは、このように多くの中国人の友達を作れたことです。私たちは4人で留学していたので、お互いに中国人の友達を作れたら彼らを紹介しようということをしていました。これによってより友人の輪が広がっていきました。彼らと友達になれたことで私たちはより中国そして武漢を知ることが出来ました。武漢の様々な所へ赴き、中国そして日本、はたまた世界情勢について中国の人達と話し合うことで、今までは全く分からなかった中国の内情を知ることが出来たし、それによって日本という国を外から知ることも出来ました。単純に一緒にいて楽しいだけではなく、留学の本分を中国の方々と親密になったことによって全うできたと感じています。



(↑左：解剖学実習で知り合った友達 右：フランス留学組とバドミントン)



(↑左：東湖で薬理学講座の人達と 右：友達の寮にて・ご飯を作ってもらいました。)

⑤ 武漢留学で学んだこと

よく留学に行くと世界観が変わると言われますが、まさしく・・・その通りでした！そしてこの感じは言ったことのある人にしか実感はできないと思います。ですので、これを読んでまだ留学経験がないという後輩たちには、絶対に武漢に行った方がいい！というアドバイスだけは強く残しておきます。

私が武漢で学んだことは、まず中国の学生たちのストイックさでした。彼らの話を聞くと、中国の高校生は朝の6時台から夜の9~10時までは学校で授業があるそうです。しかも帰宅後は明らかに終わらない量の宿題をやらなければならない、毎日寝不足状態。さらに土日は塾に行くという圧倒的な勉強時間を経て大学へ臨む、という形でした。このことが良いことか悪いことかは人の感じ方によると思いますが、彼らからすると、その位の勉強時間を費やさないと良い大学、そしていい仕事にはつけないそうです。更に勉強だけではなく、彼らは自分に付加価値をつけることに貪欲で、例えば英語の習得は当たり前として、いつも他に自分の武器になるようなものを見つけ、その会得に一直線に時間をつぎ込んでいます。

また、多くの学生が政治や国際問題に関心を強く持っていることも非常に印象的でした。彼らは自分たちの国だけでなく、日本の歴史や政治問題にも詳しく、私たちに意見を投げかけては求めてもきました。そこで私はいかに自分が自分の国について知らないのかということに気付いたのです。私は英語を勉強しなきゃと留学前は焦っていましたが、本当に重要なのは英語を話すことではなく、いかに話す内容を持っているかということでした。私が感じているだけかもしれませんが、日本の学生は世界の情勢、歴史、政治に対する知識そして自分の意見を持っている人は少ないように思えます。しかし中国の人々はそれを持っていて、たとえそれが現代の中国の生活、政治等への不満や飢餓感が身につけさせたものだとしても、日本という国で何でも与えられて育ってきた私にとっては決して受動的に得られるものではないのだ感じました。このことに気づけたことがこの留学での一番の収穫だと思います。そしてこの経験を基にこれから自分を高めて行ければ良いと思うことが出来ました。また是非この経験をこれから武漢へ行く後輩にもしてもらえたらと思います。

他に、中国の人々の思想や文化に触れあえたことも大きな収穫だと思います。日本のマスメディアでは、中国での反日運動などが大々的に報道され、中国もしくは中国人に対してあまり良くないイメージを持っている人もいると思います。そしてそれと同じようなことが中国でもあるようです。しかし、この留学を通じて中国の人達が本当は日本に対してどのように思っているのかを知ることが出来ました。日本が大好きな人、政治問題は政府がきちんと話し合うべきだと言う人等、様々な人がいます。そのような人たちと散々話して、お互いの意見を主張し合い、最後には笑って理解し合うことも出来ました。マスメディアによる断片的な情報だけではなく、しっかりと国民同士が繋がり合うことが本当に重要なことだと実感しました。

⑥ 後輩たちへ

これを読んで来年以降武漢へ行きたい！と考えている後輩たちにアドバイスをしようと思います。

まずは英語をしっかりと勉強しましょう。難しい構文や文法をがちがちに覚える必要はもちろんありません。英会話をするだけなら中学英文法で十分だと思います。しかし、文法を知っているのと話すのとでは全く次元が違うように感じました。中国に行く前にしっかりと話す練習をしましょう。私は中国に行く一か月前位から、武漢と一緒にいった友達の家に集まって、話題を決めて英語でディスカッション、ディベートをやっていました。中々効果があったと思います。また、話すだけでなく相手の話を聞く必要もあるので、リスニングの練習も必須だと思います。私はリスニング能力があまり無いまま中国へ突っ込んだので、相手の英語を聞くことに苦勞をしました。話す練習と聞く練習が出来たら、あとはボキャブラリーを増やして話に深みを持たせられたらより良いのかなと思います。

次に、日本・福島についてしっかりと勉強しておきましょう。あちらでは当然ですが、日本はどんな国なのか？とか、日本のこんな所が疑問なんだけど教えて！とか色々日本もしくは福島について聞かれます。そのような時にしっかりと日本を紹介できるのがベストだと思います。まあ教養的な部分にはなってしまいますが、やはり自分の国について知らないということは恥ずかしいことだと思いますので(私も説明できなかつたりして恥ずかしい思いをしました)、しっかりと日本を学んでから留学しましょう！特に日本について話したのはアニメ(コナンや犬夜叉、ワンピース等)、ドラマ、政治問題(尖閣諸島等)、歴史(戦国時代や明治時代)等ですかね。しかし、医学生や先生が興味があるのは日本の医学教育、そして医療制度です。これは中国と違うところが多くあるので、まずは日本の医学教育と医療制度についてしっかりと学んでおいてください。中国の方々には説明してあげると非常に興味津々に聞いてくれます。

最後に、中国について学んでおきましょう。せっかく中国に行くのですから、中国人と仲良くなって、中国についてよく理解して日本に帰ってくるのがベストだと私は思います。私はあちらに中国語の入門書を持っていき、少し勉強してきたのですが、やはり中国語を使って話したりすると非常に喜ばれます。そしてそこから急に親近感が湧かれ、めちゃくちゃ仲良くなれますよ。ただ中国語の発音は鬼のように難しいので、中国人の友達を作って矯正してもらうのが良いと思います。私にとっては語学を新たに学べるとてもいい機会でもありました。また、中国という国自体についてもある程度学んでから行くのが良いと思います。特に近代中国の歴史と中国共産党については知っておいた方が深く話すことが出来ると思います。せめて毛沢東位は知っておきましょう。私は三国志が昔から好きだったので、三国志トークで盛り上がりました。武漢市には赤壁もありますので、三国志は良い話題作りになると思います。

まあ是非中国人の友達をたくさん作って、たくさん色々な所に遊びに行っておいで

さい。中国について教えてもらい、日本について教えてあげるだけでとても良い国際交流が出来ますよ。

長い内容となりましたが、読んで頂きありがとうございます。やはり私が経験したこと、感じたことの全てをこの文章で伝えることはできませんでした。しかし、それだけ語りきれないようなことをこの武漢留学で私は経験することができ、この経験が将来の私の人生において強い力になるだろうと確信しています。これから留学をする後輩たちにも同じような経験をできることを切に願っています。

最後となりましたが、今回の留学に関わって頂いた福島教授をはじめとする福島医大の先生・職員の方々、そして中国でのお世話をして頂いた武漢大学解剖学講座の Dai 教授、王先生をはじめとする先生・職員の方々に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。